

株式会社 DOI FARM

※2018年3月現在

代表者名	土井 一彦	資本金	5百万円
設立年	2017年6月27日	売上高	136百万円(2016年12月期)
事業内容	生産(生乳、子牛、野菜)、 消費者直売、加工・製造、 飲食	経営規模	畑9ha、加工施設41.53㎡(ジェラート、パンほか)、直売所39.12㎡(5品目約100種類)、 畜舎1,200㎡、経産牛100頭
従事者数	12人(うち女性10人。(女性内訳:役員1人、一般職4人、常勤パート5人))		
女性活躍支援	<p>[女性に配慮した取組み、実績のある制度・支援]</p> <p>育児休業、育児休業代替要員を確保、家族経営協定締結</p> <p>[女性に配慮して取組んだ環境整備]</p> <p>施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレ・シャワー)、重労働等の業務改善</p>		



静岡県富士宮市

経営概況

株式会社 DOI FARMは、静岡県富士宮市で酪農業と乳加工製品の製造・販売を行う経営体である。酪農業では約100頭の経産牛を飼育して生乳を生産する他、子牛の販売、飼料用トウモロコシ・麦を生産・販売している。乳加工製品業では、独自店舗(カフェ)でオリジナルのパンやジェラート、ヨーグルトなどの製造・販売を行う他、近隣の飲食店を対象にした委託生産など、経営安定化のための多角経営を展開している。

同社は1967年の創業。代表の土井一彦氏は3代目に当たる。従来は家族経営の牧場だったが、2017年6月に株式会社へと移行した。

現在、一彦氏と妻の智子氏、そして4代目に相当する長男が役員を務めている。その他、正社員は4名、常勤パートは5名を数え、すべて女性である。



一彦氏は富士宮農業協同組合総代、富士地域農村生活研究会会長を務める。また智子氏は、「ふじのくに未来をひらく農林漁業奨励賞」を受賞するなど、地域産業界においても主軸を担う存在である。

1. 経営者の理念・意識改革

妻の智子氏は30年前に一彦氏と結婚。酪農業に従事するかたわら、3人の育児に奮闘した。しかし当時は牛舎等の施設が古く、作業効率の悪さから家事や育児の時間が圧迫されていた。その改善のために夫婦で話し合い、労働生産性が高く、かつ牛が快適に過ごせる牛舎を1997年に建設。1日8時間を要した労働時間が5時間に短縮され、育児と経営を両立できる環境が整備された。それにより、智子氏の長年の夢であった、自家生産牛乳を使用したパンの製造販売がスタートした。2012年にはカフェ「パール・ジェラテリア」を出店してジェラートの製造販売にも乗り出すことができた。

そんな自身の経験を活かし、家庭を持つ女性でもワークライフバランスを確保できる労働環境の整備に努めている。株式会社への移行も、次世代への事業承継や取引先との信頼確保はもちろん、

家族以外のスタッフも含めた、雇用体制の拡充も大きな目的としており、経営者家族も家族経営協定を締結した。

2. 女性が働きやすい環境の整備

酪農業は生き物（牛）を相手にするため、細やかな観察眼と対応が求められる。また乳製品加工業は、品質・衛生管理はもちろん、女性目線での商品開発や店舗作りが必須となる。どちらも女性の感性が大いに活かされる仕事であり、結果的に同社では、現在、社員と常勤パートはすべて女性スタッフで構成されている。

酪農業は力仕事が多い印象があるが、同社では女性の体力面を考慮し、省力化のための機械化を積極的に推進している。また、作業台の高さを女性向けに調整したり、牧草堆肥には枯草菌を使用して臭いを軽減するなど、仕事のしやすさに配慮している。

また、すべての業務でマニュアルを整備したことにより、新規採用者でも3日で作業に従事できるようになった。

設備面では、着替え室・休憩室や、屋内・外のトイレ、シャワールーム、洗濯場を完備している。仕事終わりにシャワーを浴び、その最中に洗濯機を回して干しておけるので、女性スタッフに好評を得ている。

休日については自己申告シフト制を採用していて、1週間程度の連続休暇も取得可能となっている。

3. 女性のキャリア形成

社員採用にあたっては、マッチングシステムを導入。最初の3カ月間はパート雇用とし、その後の話し合いで、常時雇用に進む。また、作業習得と担当部門の拡大に伴って昇給する仕組みを採用し、キャリア形成へのモチベーションを高めている。また、東京のジェラート店などの先進地視察なども、キャリア形成の一助となっている。

同社では、労働意識の共有による会社の一体感を推進している。例えばカフェ部門では、全員がジェラートやパンの製造・販売が可能。繁忙期には牧場スタッフが手伝いに来るなど、職場横断の役割分担の中で意識の共有を高めている。

特に、株式会社に移行してからは、毎月1回の全体ミーティングを実施。目標の明確化と自己採点制度の導入も相まった、仕事に対する意識変革が、キャリア形成につながっている。

4. 女性のアイデアを活かした商品開発

環境整備の結果、従業員が定着し、労働生産性が向上した。なお現在は1名が育休を取得中である。

従業員の定着に加え、マニュアルの整備によって新規就労者でも無理なく働くことが可能になり、労働が平準化された。これにより、農場では牛の病気が2割減少。製品加工では品質の安定化に貢献し、顧客の信頼と拡大につながっている。

意識共有の一方で、スタッフそれぞれの持ち味を活かすことにも注力している。パンやジェラートの商品開発ではアイデアを出し合い、パッケージや販促用のフライヤー、POP、WEB展開などは、得意なスタッフが能力を発揮している。いずれも女性の感性、特に子供を持つ母親や消費者目線が活かされている。

審査委員の声

男性は社長と息子の2人のみ、従業員は全員女性。酪農は女性に向けた業種なのだと改めて認識させられた。社長の妻は、得意のパン作りで6次産業化を図り販売部門の責任者を務めるが、広告宣伝はスタッフに任せるなど各人の得意分野を活かした運営をしている。東京で働く娘から、経営コンサルタント顔負けのアドバイスを受け、それが経営の改善に繋がるなど思わぬ女性の活躍もあった。法人化を経てより充実した経営が期待される。